

公認会計士試験合格体験記

2006年度卒業(会計専門職専攻) 小林 祐介

私は中小企業の支援機関に勤務しています。平成17年4月に経営戦略研究科に入学し、平成18年9月に修了した後、平成19年度公認会計士試験に合格しました。

公認会計士試験の受験に際し、私が最初に手をつけたことは過去問の研究です。過去問からは、試験で問われることの範囲と深度を知ることができます。私は過去10年分の問題を読みました。新試験に移行した06年の問題は、月に一度は解いていました。最終的に問われることは何なのか、今自分はそのレベルに達しているのか、この2点を念頭に置いて本試験まで勉強を続けました。

試験勉強はとても辛い作業です。自身の中の怠惰と幾度も出会います。しかし、自分の未知なる部分と出会う機会でもあります。効率良く得点するために、問題の解き方を試行錯誤しました。より優れた解法を発見した時は、自分自身と喜び合いました。また、社会人故に、限られた時間の中で、効率良い記憶法を試していくのも楽しみでした。

アカウンティング・スクールでは、年齢も立場も違う者同士が公認会計士試験を目指しています。他の受験生は確かにライバルかもしれませんが、しかし、友であり、師でもあると私は思います。年齢や立場に関係なく、その人の勉強に対する姿勢や勉強方法について、優れたものに触れ、自分のものにしていく機会は無数にあるのです。

公認会計士になるという思い。この1年間何度もこの原点を確かめました。あなたも強い意思を持つ人であると、そう信じています。



論文式試験を終えて

2006年度卒業(会計専門職専攻) 寺戸 高史

2007年度公認会計士試験論文式試験に合格することができ、アカウンティングスクール(AS)の先生方や勉強仲間には本当に感謝している。ASの良さは実務経験豊富な教授陣や社会人学生の方々とお会いすることだと思う。なぜなら、そのような環境では、刺激されることが多く、モチベーション維持につながるからである。また、AS卒業後も添削指導してくださったり、自習室を使用することができたことは大きなメリットであった。

私は、AS入学前、簿記、管理会計(原価計算)、法人税法などの勉強をしていた。したがって、企業法と監査論は初学者であり初めて受けた授業で困惑した。「企業法」は毎回課題が多くて、大変であったがとにかく授業についていこうと頑張り、また、岡本先生も熱心に指導してくださった。「監査基準論」は西尾先生の人柄から楽勝科目と思っていたが、実際はそんなに簡単なものではなく試験前は監査基準を詰め込んだ覚えがある。また、小菅先生の授業でも、もう一度管理会計の知識を鍛え直してくれた。いま振り返ると、厳しいといわれる授業ほど自分のためになるものであったと確信している。

論文式試験は5科目の総合評価で決まる。頭では解っていても、実際に試験会場でミスをしてしまうと不安になるものである。私は、2日目に大きなミスをしてしまったが、最後まで悔いのないように受けようと頑張った。論文式試験は3日間行われるため、最後まで諦めずに試験を受けることが大切であると身をもって感じた。

これからもさらなる飛躍を目指して頑張っていきたい。仕事も、勉強も、そして恋も！！

